

議会の反発乗り越え

市役所を民間委託、正規職員3割に

兵庫県加西市の大胆な改革計画

市役所の仕事を包括的に民間委託し、将来的に正規職員を現在の三割程度まで減らす。兵庫県加西市の中川幡三市長がこのほど発表した計画は実に大胆なものだ。

「さすがに僕もここまで踏み込むのは躊躇していましたが、実現されればすごいことだと思えます」

中川市長の発表した計画に對する機嫌大府知事のコメントが、七月下旬の夕方のテレビのニュースで流れた。

大坂府を巡って大坂市と激しいバトルを繰り広げる橋下知事も「すごいことだ、大胆な案といふことだ、発表された計画によれば、臨時採用を含めて現行約千八百人いる加西市の職員のうち、病院と消防を除く約七百二十

人の正規職員を二一三三年にかけて約二百人にすといふ二割という目標は、予算編成などの専断性の高い判断をする人員や、市税滞納者への差し押さえなど法令で公務員とする決められた業務に携わる職員数からはじき出したもの。

事務部門まで対象 全国初の試み

つまり、公務員でなければできない仕事をギリギリで絞り込み、あとは民間に業務を委託するわけだ。窓口業務にとどまらず、福祉、上下水道、都市計画にいたるまで、最終決済を担うほとんどの事務部門が含まれる。財政課から図書館の運搬などを民間委託する自治体は多いが、事務部門まで手を入れるのは全国初の試みである。

職員平均給与 五〇〇万までに

加西市の場合、職員の平均給与は七百二十万円で、これに五百万円までに抑えるという。そうすると、例えば、今後十年間に退職する職員百十六人で計算すると、年間約三億円の削減が可能になる。仕事を官から民へ移すだけでは、雇用そのものは減るわけではない。

改革進めぬ柏原市 市長の器に違い？

加西市市長は平成十七年に、中川市長で、平成十七年に、故郷の柏原市長に転じ、現在二任期。助役などは全国公募している。十九年に職員採用を巡って市議会と対立。二度の不信任決議で失職したが出直し市長選で再選された。一時期か「公民連携」による行政改革を進める方針を

☆はまうら佳子の元気が出るコラム

毎年ノーベル賞候補に名前があがる物理学者、飯島遼男博士。カーボンナノチューブの発見者として世界中から注目されている先生です。この方の言葉で、とても納得できることがあります。

「勤」というのは欄ボタ式に出てくるものじゃない。これまでに経験したことが体の中に残っているからピンとくる。

飯島先生の世界的発見と比べるとはおおきくまいしですが、私のような凡人にも「これだ」とひらめく瞬間があります(実は私の良さ)に密かに自身を持っています。自分のことを「ミスター・ゴミ」と称した夫・龜藏とともに取り組んできた環境問題、地域の人たちと

いっしょにつくり上げた環境フェアや防犯ルミナリ工など…。大変な苦労もありましたが、その経験は、参加してくれた子供たち笑顔とともに私の体の中に刻みこまれています。

だから地域のこと、環境のことになると「これだ」という勘が働くのだと、納得させられました。このことは熟

年者、高齢者にも希望を与えます。とかく若さだけがもはやされる世の中ですが、長い人生のなかで積んできた経験から来る「勘」を大事にすることは、そのまわりを尊敬し、大事にすることにつながります。

さすが世界級博士、素晴らしいことをおっしゃいます。



チエン



加西市では、民間企業出身の中川幡三市長のもと橋下知事もびくびくする市役所改革が進められている。柏原市の岡本市長にも、当選当初に公言した通り「民間の経営感覚を生かす」市役所改革をしでもういたいー加西市ＨＤより

先日、完成したばかりの新しい県庁議員会館へ行ってききました。事業費千四百十四億円をかけたあたり、とにかく建物全体が広々として立派。エントランスの豪華さは言葉にできません。

私たちの主張

国民の負託に応える 政治活動の拠点に



いって、懐かしい空気が充満していました。各議事事務所の広さは旧会館の二・五倍。保育施設なども整備され、地下道で議事堂へ行けるというきれいな文句はありません。ただしそのように議員さんががんばればよいのか？

肝心の亀井先生はまだ一度も事務所に顔を見えてないとのこと、秘書室の方から勧められ、登壇ならまよふ一足先に登壇せよともりました。(佳子)

現職員は現在のの一割になる。

早ければ年内にも、臨時職員のうち五十六人、人材派遣会社に転籍させ、その後四・五年以内に病院や学校の臨時職員にも拡大する考えだ。将来的には七十分程度にす、というところ、なんと正確に行政改革を進める方針を

鳥の元社員で、平成十七年に故郷の柏原市長に転じ、現在二任期。助役などは全国公募している。十九年に職員採用を巡って市議会と対立。二度の不信任決議で失職したが出直し市長選で再選された。一時期か「公民連携」による行政改革を進める方針を

「やはりいっしょうきょう。前号では大紀が問題業者であることが報道されましたが、同僚企業家の近藤クーンもまた問題業者でした。

みなさまの声

info@change-kashiwara.com
〒652-0035 加西市南郷2丁目23番地5号
電話 072-877-5502 FAX 072-877-8792

このような不正疑惑は一刻も早く一掃し、危機的状況にある財政改革、役所改革しなければなりません。引き続きみなさまの声をお聞かせください。

パトロール

柏原市の広報報「かしわら」八月号を手にした人はびっくりしたかもしれない。家庭ごみの収集で市民の皆様に「迷惑をおかけいたしません」という大御な見出しで、今回の家庭ごみ収集に指名競争入札を導入したことをページ丸々使った。これに「だらだ」(「透明性、競争性を高めるため」今回の指名競争入札導入により平成二十三年度は、約一五億円)となります。結果、(中略)約一・五億円が節約できたと「成果」を誇示している。その必死さがむしろ自分たちの後めつたさを隠すためのうしろめたさを露にするのだが、それはともかく、約一・五億円の節約のなかには事業系ゴミの委託料も含まれていて、家賃ゴミだけではいけません。こんな姑息な数字のごまかしはたまにされるべきではない。本紙の一連の報道を意図して弄解してはならない。問題業者をなぜ指名業者として選定したのか、岡本市長と問題業者との癒着疑惑について説明は一言もない。